



弘前大学男女共同参画推進室

# さんかくつうしん

~News Letter~ vol.6

制度・手続き情報ナビ	1
第4回セミナー開催報告	1
KA・GA・KU	1
第3回女性研究者インタビュー	2
第3回女性研究者インタビュー	3
育児休業取得インタビュー	4
第3回理工学部女子会	4
お知らせ	4

## Work・Life・Balance

<http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/care/>

### 教職員のための制度・手続き情報ナビ ウェブサイトで公開されました!



#### 教職員のワークライフバランスを実現するために

「育児休業中、給料はどうなるの?」「結婚した時の提出書類は何かあるの?」「介護休暇の手続きはどうするの?」「家族の介護をしながら、仕事も続けることはできる?」など学内の制度や手続き、地域の情報について知りたい時は、情報ナビをご活用ください。

**Info 01 妊娠・出産・育児に関する情報**

- ・妊娠出産に関すること
- ・勤務時間・休業、休職に関すること
- ・育児に関すること
- ・非常勤職員の休暇(無給の休暇)

**Info 02 介護・介護保険・共済に関する情報**

- ・介護の休暇・休業に関すること
- ・介護保険に関すること
- ・共済組合費に関すること

**Info 03 結婚に関する情報**

- ・結婚した時の手続き等に関すること

**Info 04 わたしの知りたい Q&A**

- ・国民年金に関すること
- ・子育てに関すること
- ・健康に関すること

**Info 05 関連機関・団体等 一覧表**

- ・弘前市役所
- ・青森県青少年・男女共同参画課
- ・厚生労働省青森労働局 他

情報ナビへのご意見やご要望など、教職員の皆さんの声をお聞かせください。

連絡先：弘前大学男女共同参画推進室  
equality@cc.hirosaki-u.ac.jp

## Seminar Report



### 「光」の研究・教育に魅せられて —未知へ挑み創成する楽しさと人材育成—

昨年12月7日(水)、コラボ弘大8階八甲田ホールにて第4回セミナーを開催しました。

独立行政法人科学技術振興機構男女共同参画主監、日本女子大学名誉教授、工学博士の小館香椎子氏を講師としてお招きし、ご講演いただきました。

ご自身の「光」に関する研究についてのお話や、教育者として学生たちのモチベーションを上げて成果につなげる工夫の紹介。さらに、長年にわたって力を注いでこられた学会や大学における男女共同参画推進の必要性・課題・解決策など、人とのつながりを大切にしながら、3人の子育てと研究・教育を両立させてきた小館先生の具体的な示唆に富む話に、会場を埋めた約70名の学生・教職員は熱心に聞き入っていました。

(詳しくは「つがるネッサンス! Web サイトをご覧ください。)

## KA・GA・KU Report

“Science”の面白さを伝えるために、弘前大学で開催されている理系のイベントをつなげて発信しています。



2011年度は教育学部ラボバスプロジェクト・白神自然環境研究所・生涯学習教育研究センターとの連携イベントを3件行い、弘前大学総合文化祭へも出展しました。

「昆虫博士養成講座・入門編」では、小学生が昆虫採集やカブトムシの標本作成に挑戦しました。「むつ市弘前大学連続講演会 第3回目～活性化する青森の今とこれから～」では、特任教員2名が高校生や一般の方々を対象に自らの研究を紹介しました。



また、地元高校からの依頼を受けて昆虫DNAを比較する実験を行うなど、野外活動から実験室体験まで、幅広い内容でKA・GA・KUの楽しさをお届けしています。

## 平成22年度「部局長アンケート」と「つがるネッサンス！」

### ❀ 「各部局等の現状から「つがるネッサンス！」事業へ ❀

平成22年度からスタートした科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才」では、学内外の状況を調査し、得られた結果を事業展開に反映させています。今回は平成22年度に行った、学内部局長等を対象としたアンケート調査の結果の一部をご紹介します。

#### ❀ 実施した調査について

「つがるネッサンス！」の開始にあたり、学内の各部局等の現状と取り組みの状況を把握するために平成22年度に実施したのは、「弘前大学における女性研究者の比率向上に向けた取り組みに関する部局長アンケート」です。調査対象は19部局で、18部局(うち理系11部局)から回答がありました。

#### ❀ 数値目標のハードルは高い

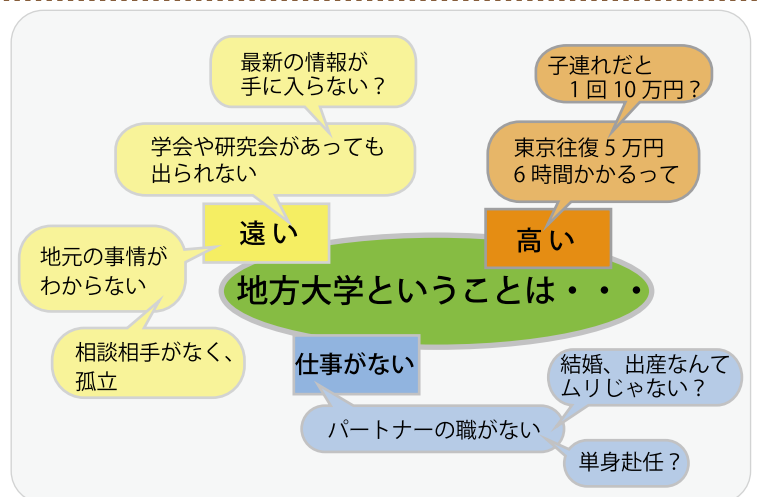
「つがるネッサンス！」が設定している、平成24年度に女性研究者在職比率15%、同採用比率16%という数値目標について、調査時点の達成状況と達成の見込みは、右のようになっています。既に達成している部局を除けば、目標の達成は高いハードルとして認識されていることがわかります。

数値目標について	回答部局数	
既に達成している	●●●●	4部局
達成の見込み 「ある程度」	●●	2部局
達成の見込み 「困難」	●●●●●● ●●●●●●	11部局

#### ❀ 困難さの理由は応募する女性の少なさ プラス地方大学という条件

それでは、なぜ数値目標の達成は困難なのでしょう。どのような理由(複数回答)が主たるものとして挙げられました。ここでは、「女性研究者の少なさ」という日本の大学に共通する理由に加えて、「交通不便な弘前の立地条件」や「配偶者との別居や単身赴任」といった本学固有の理由がみえてきます。

数値目標の達成が困難であるとする 主な理由 (複数回答)	回答部局数	
採用ポストの少なさ	●●●●●●	6部局
女性研究者・女子学生の少なさ	●●●	3部局
公募への応募者の少なさ	●●	2部局
交通不便な弘前の立地条件	●●	2部局
配偶者との別居や単身赴任	●●	2部局



すなわち、地理的条件(遠い、高い)、生活条件(仕事がない)という、地方大学ならではの事情が、女性研究者に公募への応募を躊躇させる、という上のような構図がみえてきます。加えて、結婚・出産・家事・育児・介護の負担や過重な勤務状況が研究の継続を難しくしているという指摘もみられました。

#### ❀ 改善のための施策とは?

弘前大学では、すでに学内保育園の設置といった施策が行われていますが、これらに加えて今後有効と考えられる施策(複数回答)として、右のようなものが挙げられました。新規採用者・応募者の増加に加えて、現在在籍している女性研究者の研究継続のための施策もみられます。

今後有効と考えられる施策 (複数回答)	回答部局数	
女性限定ポストの設定	●●●	3部局
ポジティブアクション	●●	2部局
女性研究者の成果発表の支援	●●	2部局
定員数の増加	●●	2部局
過重勤務・待遇など、 環境の改善	●●	2部局

#### ❀ 1年後の現状は

「つがるネッサンス！」のスタートから1年あまりが経過し、全学女性研究者比率は13.1%(平成22年度)→15.1%(23年度)へ、保健学科を除く理系では3.5%(22年度)→4.9%(23年度)へと向上しました。この間(平成23年4月～12月)の新規採用ポストへの女性の応募は、全体では14.0%であるのに対し、理系は7.6%、文系は24.2%でした。女性研究者の応募のない公募も存在しています。

#### ❀ 全学的な課題の共有に向けて

この調査から明らかになった課題について、「つがるネッサンス！」では女性研究者が家族と一緒に赴任できる制度、研究スキルアップができる支援、学部や世代を超えたネットワークづくりといった取り組みを進めており、さらには弘前大学のすべての「教職員のための制度・手続き情報ナビ」もオープンしました。これらをより前進させるために、各部局等との連携と全学的な課題の共有は、大きな力となるでしょう。皆様のさらなるご支援をお願い申し上げます。

# 主婦から研究者への転身

## ある日、恩師から電話が

弘前大学医療技術短期大学部(当時)を卒業後、1年間保健師養成の学校に通い、森田村(当時)で5年近く保健師をしていました。その後結婚を機に退職、弘前に住んで2人目が産まれた後に、恩師から一本の電話がかかってきました。「照美ちゃん、今何やってるの?」「今、主婦してます」「ちょっと非常勤やってみない?」…これが今の道に進むきっかけでした。

はじめはお断りしたのですが、「誰にでもできることではない」と説得され、ついに「短い時間だったら」とお引き受けすることにしました。

週3日の勤務からスタートし、5年間非常勤講師として勤めた後、短大が4年制の保健学科に移行するときに助手になりました。



保健学研究科 准教授

古川 照美  
Terumi KOGAWA

今回のインタビューで、これまでのことをいろいろふり返ることができました。まわりのみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。

青森県尾上町(現在は平川市)出身

## アイロンをかけながら放送大学で勉強しました

非常勤講師で働き始めたころ、夫が当時まだ珍しかったスカパーフェクトVを見るために、3万円をかけてチューナーとアンテナをつけました。時期を同じくしてスカパーで放送大学を視聴できるようになったので、大学卒の資格を取るために受講することにしたのです。放送大学は2年で修了し、無事学士号を取得できました。

助手になってから、当時の上司に学位を取るようと言われていたところ、放送大学でちょうど大学院を新規開設することになりました。さっそくチャレンジして1期生となり、2年間で修士号を取得しました。

放送大学は、いつでもどこでも学ぶことができます。大学の時も、大学院の時も、自分の登録している授業を録画しておいて、よくアイロンをかけながら見たものです。

途中でノートをとったりしながら、1時間の1回の放送分で1枚アイロンがけをするというペースでした。



研究や社会貢献としての事業を通して、学校や公民館などで地域の人たちと一緒に活動しています。

このコーナーでは、弘前大学で活躍する女性研究者を紹介します。

## 母の応援 夫の支え

助手として本格的に勤めるときには、夫をはじめ、周りみんなが反対しました。唯一「女から仕事を取っちゃだめ。応援するから仕事はした方がいいよ」と言ってくれたのが、私の母でした。母は、自転車で1時間かけてうちに通い、小学生だった2人の子どもたちが帰宅する時間に家において、私が買っておいた食材で夕食の準備もしてくれたのです。夕方に自営業の父がライトバンで迎えに来て、母親と自転車を乗せて帰るという毎日でした。8年前に父が亡くなってからは母も来られなくなりましたが、親には本当にお世話になりました。

実は、6年ほど前に不況のあおりを受けて夫が勤めていた会社が倒産してからは、夫がうちの家事をしてくれています。私はけっこう帰りが遅くなったり、出張も多いのですが、彼がいるので安心して仕事ができます。週末には、夫とお酒を飲みながら、たくさん話をします。それが私のストレス解消法になっていて、今は、そういう意味で、とても支えてもらっていると思います。

## これまでの人生が研究に生きる

私の研究は「保健」分野なので、データを見て人の行動をどう変えていくのかということが中心的内容です。

青森県南部町をフィールドとして行っている研究では、中学生に対して採血を含めた健診をした後、保健師や栄養士が母親と子どもを相手に「健康面談」をして、その結果を分析しています。ここでは、私のこれまでの母親としての経験が大いに活かされていると感じます。自分の子どもの成長と一緒に、わからないことや疑問点を、少しずつ研究という形で自分なりに問題解決していく過程がとても楽しいです。

## エール ~若い女性研究者たちへ~

結婚出産後に研究者の道に進んだ私が言えるのは、勉強は、やる気さえあればいつでもできるということです。子どもを産める期間は限られているので、少し寄り道になったとしても、その時にしかできないことを大切にすることも人生ではないでしょうか。

それから、「野心」を持ち続けることです。「野心」は「夢」という言葉と置き換えることもできます。ああしたい、こうしたいという強い気持ちが、最後まで頑張れる原動力になるでしょう。何かあっても「野心」を持ち続けられれば、きっと何とかなる、乗り切っていけると思うのです。

私のことを「野心家だ」と言ったのは夫です。はじめは「え?私が?」と思いましたが、その「野心」があったからこそここまで来たのかなと、今では思っています。

Childcare Report

弘前大学男性教員で初めての育児休業取得！  
～仕事と育児の両立支援を男性にも～

全国的に男性の育児休業取得がまだまだ進まないなか、教育学部の増田貴人准教授は、昨年7月に2人目のお子さんが生まれ、10月に約1か月間育児休業を取られました。その時の様子、感じたことなどをインタビューしました。



— 育児休業を取られた理由は何ですか？

もともと「わが子の育児に専念するための休みを取りたい」という思いは持っていたのですが、今回は5歳の上の娘のため、というのが一番大きな理由でした。私が下の娘の世話をすることで、長女の「お母さんを独占したい」という望みをかなえてやれてよかったと思います。

— 取ってみてわかったこと、感じたことはありますか？

スーパーなど外出先で、おむつ替えスペースが女性用トイレにしか設けられておらず、不便でしたね。

それから、住んでいるアパートの管理会社から、いきなり「お仕事は順調ですか？」と電話がかかってきたのにはびっくりしました。誰がどう連絡したのかはわかりませんが、平日に昼日中から子ども連れで散歩していると、男性が仕事をしていないのは変だと思われるんですね。

— なるほど。「男性も育児を」と言うなら、「普通に」取れるように周りも変わる必要がありますね。

職場の理解のおかげで、「育児休を出す」というところまではさほど難しくありませんでした。

でも、取得期間が長くなればなるほど家計へのダメージが大きくなる今の制度では、本当は1年間休みを取りたくても、現実的には厳しいです。それに、休みから復帰した直後は、仕事がまさに山積みで、2週間ほどはろくに家に帰れない状況が続きました。いろいろな面で、無理せずに育休を取得するには、まだ壁が多いなと感じます。



— この先、男性の育休取得が増えていくためにはどのようなことが望まれますか？

本心では育休を取りたいと思っている男性は少なからずいると思います。そのような人たちが育休取得に踏み切れるように、「出産して子育てしながら働き続けたいと願う女性のための支援」と同じように、「働きながら子育てにも主体的に関わっていききたいと願う男性のための支援」も、もっと充実すればいいと思います。

弘前大学においても、たとえば育児短時間勤務などにおいて、使い勝手のいい独自の「弘前大学プログラム」のようなものが開発・運用されてもいいのではないのでしょうか。

これから、男性も女性も、普通に仕事も育児もできる環境づくりが進んでいくことを望んでいます。

— どもありがとうございます。

第3回 理工学部女子会

IT社会の未来を切り拓く  
電子情報工学科

次世代型IT基盤技術の研究と開発



12月13日に理工学研究科で「女子学生座談会」が開催されました。各学科持ち回りで所属する女子学生から学科の魅力を聞き、その魅力を最大限生かしたHP作成や広報活動を行い、「理系女子」を増やすことを目的としています。今回は電子情報工学科に所属する女子学生に集まってもらいました。

電子情報工学科では、回路設計やプログラミングなど最先端のITに関する技術や知識を学べます。コンピュータのことを深く学ぶために電子情報工学科を志望した学生が多くいますが、高校時代からコンピュータに親しんできた人ばかりではありません。入学時にはコンピュータの操作に慣れていない人でも、コンピュータに詳しい同級生に教えてもらいながら、仲良く助け合いながら勉学に励んでいます。

座談会に参加してもらった女子学生は仲が良く、別々の研究室に分かれても時々鍋パーティを開いて集まるそうです。2名は共同で卒業研究をしており、研究に行き詰まったときはお互いに相談や助言をしながら研究を進めています。卒業後は半導体やゲーム開発、IT関係、旅客サービス業などの様々な業種の会社に就職することが決まっています。内定先の会社の研修ですでにSkypeを使い、会議を行いながらソーシャルゲームを企画している女子学生もいました。就職後に従事したい業務や企画したい内容を生き生きと話す姿を見て、当時の自分を思い返し少し恥ずかしくなりました。

同席された教員は「1年生のときと比べて“大人”の受け答えをしていて驚いた」と感慨深い面持ちでした。大学時代は身体的には目立った変化はないけれども、精神的には“子供”から“大人”へと大きな変化を遂げているのだと実感しました。これからは社会でさまざまな経験をしながら、より大きく成長していくと信じています。

(理工学研究科 藤崎 里美)

大学生活 将来の夢

弘前大学理工学部  
理工学部女子会

★ 気になる!! 理工学部女子会はココにアクセス ★  
<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mirai/list.html>

お知らせ

これまで3回にわたり「もっと知りたい! 職員のための使える制度」を連載してまいりましたが、冒頭でもお知らせいたしましたとおり「教職員のための制度・手続情報ナビ」をウェブサイトオープンいたしましたので今後は是非こちらをご活用いただきたいと思います。連載は休止いたしますが、特にお知らせしたい内容などがありましたら「さんかくつうしん」でもご紹介したいと思います。